

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>職員全員で理念を作り上げた。事務所、休憩室に掲示している。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>理念を目に見える場所に貼り、会議のたびに唱和している。</p>	○	困った時や悩んだ時は理念に返って、考え行動していきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>運営推進会議などで発表している。</p>	○	町内会の行事に参加して、馴染みの関係になりながら、アピールしていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>挨拶したり、行事に参加したり、近所の喫茶店に行ったりしているが、まだ気軽に立ち寄ってもらえるような付き合いはできていない。夏祭りには町内会の方の参加もある。</p>	○	認知症など不安等を抱えている方が相談に来られるような場にしていきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>町内会の総会、イベント、掃除、ゴミ拾い、新聞だしなどに参加、協力し、当ホームの夏祭りには、町内の人が参加してくれている。</p>	○	職員、利用者も含めて積極的に参加していきたい。
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>地域の高齢者として認知症の重篤な方でしたが、町内会の前役員に入居してもらった。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>7 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>評価後、助言を頂いた部分は職員にも伝え改善している。</p>	○	<p>評価を職員全員と共有して次回までの評価までに改善するようにする。</p>
<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>8 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>報告や話し合いを行なっているが、向上に生かせる意見は少ない。出席していない職員にも議事録や資料を公開するようにした。</p>	○	<p>やり方、内容、招待者など変えていきたい。今月の会議は歯科医師会の専務理事歯科衛生士、保健所の職員などが出席してくれた。</p>
<p>○市町村との連携</p> <p>9 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>協議会の事務局をしているので、他ホームより、行き来する機会は多い。</p>		
<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>10 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>管理者までは理解していると思う。現在成年後見制度を利用している方がいる。</p>	○	<p>研修に参加させて理解を深める。</p>
<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>11 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>小さな事でも会議で話し合い、当ホームでは絶対あってはならない事と全員認識している。</p>	○	<p>虐待しないと宣言しているが、言葉の虐待など知らずにしているかも知れないので、職員同士で意識を持って話合っていく。</p>
4. 理念を実践するための体制			
<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>12 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>重要事項を中心に真摯に詳しく説明している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会などで意見を求めるが、殆ど意見や不満はでてこない。普段の日常生活の中で気軽に話せる環境作りをしている。また自分の意見を言えない方にはこちらから察知できるようなケアに心掛けている。	○	家族や利用者が直接、意見や不満を言えなくても、こちらで感じ取れるような意識を持って支援していきたい。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	家族会、毎月の便り、毎月の預かり金の報告などで定期的におこなっている。いつもと違う事があれば電話連絡もする。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会がある。家族の訪問時に気軽に職員に話せる環境にある。家族からの要望、意見などが話された場合は記録に書き皆で共有し、管理者の指示や会議での話し合いをもつ。しかし大きな問題は殆どない状況である。	○	もっと多くの職員を家族会の場に参加してもらい、家族の思いに接してもらおう。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	1年に1度、面接をして意見交換をしている。	○	職員の真摯な意見を取り上げていきたい。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	多少シフトに余裕があるので、柔軟な対応ができています。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	当ホームは本当に離職も異動も少ない。利用者の環境変化ダメージは職員全員よく理解している。どうしても場合は挨拶やお別れ会を実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	北海道グループホーム協議会道東ブロックは活発な活動をしており、経験年数に応じた十分な研修を職員は受けている。	○	研修報告会も実施しているが、学んだ事が実際の現場に生かされるように働きかけていく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	他グループホームとの交換研修、事例検討会、管理者ホーム長会議、お互いの行事に利用者を招待するなど盛りだくさんである。	○	もっと交流したいという意見が多く、更に交流する機会を増やしていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	会社の経費で温泉旅行、懇親会などを行っている。		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	開設当初、介護福祉士は2名しかいなかったが現在10名。介護支援専門員は現在6名で開設当初からの職員が殆どである。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	話を聴く事が信頼関係構築の第1歩なので、出来るだけ機会を持つようにしている。夜勤帯を利用して、ゆっくり二人で話せることが多い。	○	不安な認知症の方が自ら話を聞いてもらう事によって、心が幾分かでも満たされる。そういう支援を目指す。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族の状況変化に応じて対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	他のサービスは現在利用していない。本人や家族の意見や要望で親切な対応するのは当然である。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	家族と相談しながら行なっている。御本人がある程度納得してからの入所となっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	・調理の参加、・一緒に行なうその他の家事、・食事での会話などに力を入れている。	○	最初は遠慮してか、とても物分りの良い、やさし人だと思っていた。でもじつは好きな事を言ったり、怒ったり、笑ったり、泣いたりする事こそ、その人らしい生活ではないだろうか。そういうホームにしていくつもりである。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の訪問時には利用者さんの生活状況、様子を詳しく話しており、家族の状況の変化などの相談にも関わっている。	○	出来るだけ、家族がホームに来られる機会が増すような、行事等を企画している。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	毎月の入江便りで、当ホームへ来ていただけるように、働きかけたり、行事への参加の招待をしている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	病院はそのまま通院できるように支援している。馴染みの理容室へいけるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	気の合う同士を隣の席にしたり、会話が皆さんで楽しめるよう職員が間に入るようにしている。	○	利用者同士が暴力沙汰になるようでは、困るが、お互いにある程度好きな事を言い合えるような介護を目指している。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所された家族が時々訪れたり、協力を申し入れたりしてくれる人もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々観察し、職員から様子を聞き、日誌に記入してある本人の言葉に注目している。	○	職員側の思いでなく、常に利用者本位で考える習慣を身につけていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時の面談や基本情報などを活用して過去の生活歴を把握して、ケアプランに活かしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	職員全員で毎月の会議で各利用者の情報を交換して、チームとして、より良い支援するよう心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族、職員とよく相談するが、本人との話し合いはなかなか出来ていない。	○	記録をしっかりとつけて、引継ぎをきちんとして、情報の共有化を図って同じ視点の基でチームケアに徹するようにしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状況変化にともない、職員との意見交換をし、支援方法を変えたりしている。家族には状況説明だけに終わっている嫌がある。	○	担当者も家族との話し合いに出来るだけ参画できるようにしたい。
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	一応活かせる様な記録にしている。黒字で利用者の様子、活動、赤字で利用者の健康状況、青地で利用者の言った言葉を明記している。	○	記録が不十分な部分も多く、もっと指導していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	何よりも、利用者が困らないような状況になるよう、いつも利用者第一位に考え、柔軟に支援するようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防には避難訓練で協力してもらい、地域の小学校、中学校とも交流がある。		
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	福祉用具販売、貸与以外はあまり他のサービス事業者との交流はない。	○	どのようなサービスが活用できるのか把握できていなく、もっと情報を集めていきたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	介護支援事業所介護支援専門員→包括支援センター→市役所→当ホームという流れで成年後見制度を活用している利用者がいる。お互いに研修に出たり、情報交換に心掛けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医と相談しながら、病気、本人の状態によって適切な医療を受けられるように支援している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	詳しい専門医は新患は半年待ちといわれ、なかなか受診できない状況である。精神科等の受診は支援している。	○	釧路にはあまり認知症の専門医師はいないが、研修や他の地域の医師などから情報を頂いて、家族等にフィードバックして支援している。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	訪問看護師とよく話し、相談、助言を受けている。	○	利用者が緊急異変になった場合、連携の看護師によく相談している。特に糖尿病のある方の対応には助かっている。これからも相談して適切な指示を受けたい。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	病院へ行き状況を教えて頂いたり、退院の際の情報交換も行っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	会議で職員全員に説明したが、はっきり分からない職員も多く、その都度十分に関係者で話し合い、理解する事が肝要と思う。	○	家族、医師との考えの違いがあり、当ホーム職員をくわえて、3者の共通理解が重要であり、十分話し合っていきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	当ホームと利用者家族とは覚書は交わしている。書類上の準備ができている。往診医も確保している。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	当ホームから別の居宅へ住み替えた実績はない。そういう場合は十分な支援を行なうつもりでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	全員していないつもりでも、そういう事があるかもしれない。気づいた職員が遠慮せず意見を言えるようにしている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	洋服、入浴、外出など選んで貰える様にしている。理解しやすい言葉かけをしている。	○	意思の疎通が難しい方の自己決定をもっと考えて生きたい。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	手のかかる利用者にあわせ、それ以外は業務に追われ、全員の希望通りかと言えば自信がない。	○	利用者の希望ばかりを考えると、居室に入って眠ってばかりいる人もいるので対策は必要だ。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	1人は馴染みの理容室へ行っています。その他の方は訪問理容で満足されている。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	準備や後片付けは特定の方だけになってきている。言葉を発しない方がどう思って食事しているか分からない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	酒量、おやつを把握し、楽しめるようにしている。お酒、おやつを自ら選び食べたりしている。	○	メニューを選んだり、自分の好きなおかずを要望できるよう支援していきたい。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	オムツを使用している人はいないが、掴まり立ちが出来ない方が増え、リハパン、パットを使用している。今後もオムツ使用者はいないようにしたい。状況を見ながらのトイレ誘導も続けたい。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	ある程度しているが、突発で入浴したい方には対応するようにしている。	○	入浴しながら利用に対して、職員皆で協力して入ってもらうよう工夫していきたい。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	昼寝や自分の休みたい時に休めるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	その人の残存能力を見定め、食器洗い、掃除などの役目を受け持ってもらったり、ゲームやカラオケなどを楽しんでいる。	○	生活歴は把握しているが、活かさきれていない。もっと職員で話し合っ実行していきたい。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族の同意の基に所持している方もいる。	○	自分で支払いできる人は現在一人ぐらいである。今後は買物のさいは自分で支払ってもらい、見守るように支援したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	出掛けたいと申し出があった場合必ず行なうよう支援している。路面が凍って、滑って転倒するまでは、殆ど毎回、買物に利用者が同行していた。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ホーム全体行事のお花見や温泉旅行の他、頻繁ではないが、全員もしくは個別に出かけている。	○	もっと回数を増やしていきたい。特に家族との外出の機会を増やしたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	申し出があった場合は支援している。3名ほど電話、手紙でのやり取りをしている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	工夫はしていないが、ホームの雰囲気自体が皆さんを歓迎している。笑顔でむかえ、利用者さんに「良かったね」というように心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	会議で話し合い、取り組んでいます。外部の研修に出た者が講師となって、職員に発表している。	○	当ホームでは身体拘束は禁止している。分からないでつい拘束してしまう事のないよう、研修に職員を参加させる。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間以外は施錠していない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	長い時間、居室にいる方には定期的に声掛けをしている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	保管場所や物の把握をしている。	○	以前外部評価で洗剤などの保管場所を注意され、急遽、棚をつけました。これからも包丁や消毒剤などの管理をきちんとしていく。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハットを細かく書くようにし、その都度会議で取り上げている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	一昨年に引き続き、日赤の講習に職員が参加し、その職員から会議の際時間をとって研修を受ける。	○	定期的に毎年この研修を違う人に受けてもらい皆が復習する機会としたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	運営推進会議などで御理解を求めている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ADLが落ちてきたり、状態が変わる毎に家族にお知らせしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	記録の回覧、申し送りなどで情報の共有はできていると思う。	○	勤務時間の10分前に出勤して、仕事前に必ず記録を見るようにしている。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	誤薬のないよう、必ず名前を声に出して与薬している。または薬が変わった時は、症状に注目しており、異変がある場合はすぐに家族、主治医に相談するようにしている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	繊維質の食材を増やすなどもう少し料理の工夫が必要だ。水分を取るよう皆、熱心に取り組んでいるが、下剤に便りがちである。	○	出来るだけ、下剤に頼らないで支援するように、これからも諦めず努めていく。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	朝食後、毎夕食後に口腔ケアを実施している。往診の歯科衛生士が口腔ケアの指導をしてくれている。	○	口腔ケアで嚥下状態が改善した方もおり、これからも訪問口腔ケアを実施していきたい。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	各人、食事の量、水分摂取量などを記録している。	○	だんだん水分をとれなくなってくる人も増えてきたが、最後まで諦めず、お茶、ジュース、ゼリーなどその人に好きな水分を見つけ支援していく。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアル。研修報告などがある。	○	もっと会議などで、確認の場が必要であると思うのでそうしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○食材の管理</p> <p>79 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>賞味期限のチェック、台所用品の消毒、手洗いの励行に心掛けている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり</p>			
<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>80 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関が奥にあるので、少し出入りがしづらいかもしれない。</p>		
<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>81 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>お花、クリスマスツリー、正月用飾り、節句人形など季節に応じて、飾りつけを変えている。</p>	○	<p>見当識障害がある方が殆どだが、季節感をだす環境をこれからも作っていく。 眩しいときはカーテンをしたり、音の大きい時は調節して快適な環境作りに心掛ける。</p>
<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>82 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>アームチェアを2脚ふやしたところ、利用する人も増え、非常にゆったりとした空間になった。</p>		
<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>83 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室内の臭いなどに気をかけて、換気をこまめに行なっている。</p>		
<p>○換気・空調の配慮</p> <p>84 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>特に冬期は飛沫感染である、インフルエンザ、ノロウイルス対策として加湿器をかけ湿度には注意しています。又換気をよくしており、快適な環境に心掛けている。</p>	○	<p>飛沫感染対策に適切な湿度を保つようにしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>浴場の洗い場は介助するには狭く、立つ位置など工夫しながら支援している。</p>	○	<p>浴場、トイレなどのスペースを広げる増築計画を検討中である。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>			
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>冬期以外は外にベンチを置いて日光浴ができる。</p>		<p>隣に大きなスペースが開いたので、今年は色々な有効活用が考えられる。まず大きな花畑や野菜畑を作りたい。</p>

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない



V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ毎日のように</li> <li>②数日に1回程度</li> <li>③たまに</li> <li>④ほとんどない</li> </ul>
97 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①大いに増えている</li> <li>②少しずつ増えている</li> <li>③あまり増えていない</li> <li>④全くいない</li> </ul>
98 職員は、生き生きと働いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての職員が</li> <li>②職員の2/3くらいが</li> <li>③職員の1/3くらいが</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
99 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者が</li> <li>②利用者の2/3くらいが</li> <li>③利用者の1/3くらいが</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
100 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての家族等が</li> <li>②家族等の2/3くらいが</li> <li>③家族等の1/3くらいが</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

上の人の威圧感があまりなく、下の社員も思った事を言い出しやすい職場である。職員同士の助け合い、思いやりがあり、その良い関係が良い介護に繋がっている。離職率も低く、当ホームでの働きながらの資格者が殆どである。利用者が自分の意見、わがままを存分に言える環境にしたい。